## ヤーナーギーターデ Persicaria hydropiper 種名

分類	被子植物双子葉離弁花類タデ科	俗称	ホンタデ、マタデ、タデクサ	生活型	一年草、直立型
分布	日本全土				
形態	葉がヤナギの葉に似るので、この名がついた。葉や花序の形状、色に変化が多く、いくつかの栽培品種がある。辛味があるので食用にする。				
	根:根は単立。				
	茎:茎は円柱形で高さは39~70㎝、直立するか斜めに立ち、下部で分枝して株になるものもある。節は太い。				
	葉:葉は柄があって互生し、広披針形で両端が尖り、ヤナギの葉に似ている。長さ3~10㎝、幅0.7~2㎝でやや厚みがり、光沢がある。両面には小腺点が密生する。噛むと辛				
	い。葉鞘は筒状で縁には短い縁毛がある。				
	花:花期は6~10 月。茎の先に穂状の花穂を出し、まばらに白い花が咲く。穂の長さは4~10 ㎝で、先は垂れ下がる。萼は黄緑色で先は赤みを帯び、4~5個に深く裂ける。				
	花弁はなく、雄しべは6個である。				
	果実:果実は円形または卵円形の痩果で、両面が凸レンズ状に膨らむ。暗褐色で光沢はなく、長さ2.5~3.5 mm位。				
類似種	ボントクタデはヤナギタデに似ているが、茎に毛があること、葉の幅が広く、八の字状の黒い斑紋があること、葉鞘の毛が長いこと、葉に辛味がないことなどで区別できる。				
	シロバナサクラタデは、外観はヤナギタデに似るが、サクラに似た白い美しい花を咲かせること、多年草で地下茎が発達すること、葉に辛味がないことなどで区別できる。				
生息場所	湿地、水辺、田の畦、水田などに群生する。水田に最もよく生える。 河原のゴミのたまる有機質に富んだところにはミゾソバ、アメリカセンダングサ、オオイヌタデなどとともに1				
	年草群落のオオクサキビーヤナギタデ群集としてまとめられる。				
繁殖	繁殖は種子で行なう。 花期は6~10月。結実して痩果を作る。 種子は植物体の周辺に落下するほか、風や水でも運ばれる。 種子は春(4月頃)に発芽して生長し、11月頃				
	枯れるが、暖地では枯れずに越冬する個体もある。				
他生物との関係	蝶類のヤマトシジミの成虫の訪花植物の1つである。タデハムシの食草である。				
配慮のポイント	水田の害草として嫌われる。				
トピック	芽ばえを刺身のツマにするほか、健胃・血行促進・消化促進などの民間薬になる。食用として栽培されているタデは、本種から出た変種である。秋は紅葉して美しい。				
その他					
引用文献: 『川の生物図鑑』を改変					